

# 天声人語

機械が好きか嫌いか。こんな問いはいまどき、相手にされないかも知れない。機械なしの暮らしなどない。携帯電話は断固使わないという人が以前はいたが、最近ほとんど見かけなくな

った気がする▼機械と人間の間合いをめぐり、戦中に大まじめな議論があった。真珠湾攻撃の翌年、「近代の超克」と題する座談会だ。機械文明は近代西洋、とりわけ米国のものである。しかし、敵の産物だからといって否定はできない、うまく使いこなすのだ、という主張に反発が出た▼批評家の河上徹太郎が「精神にとつては機械は眼中にない」といい、同じく小林秀雄も「賛成だ。魂は機械が嫌いだから」と同調した。やみくもな言い分である。それは問題を避けているだけだという真つ当な反論もあったが、物別れになった▼昔の話を思い出したのは、きのうの本紙経済面「異才面談」を読んだせいだ。国立情報学研究所の新井紀子教授が語る未来の予測である。人工知能を進歩させ、東大の入試に合格させる計画を進めている▼**①**機械の職場進出が大きく広がり、人々の雇用を奪う可能性があらうという見通しに、どきつとする。もつともそんな流れはとつくにあつた。まず職を失ったのが女性だったから大騒動にならなかつただけだという指摘にも、はつとする▼予測通りになって、河上らのような機械嫌いが再登場するだろうか。しかし、技術の進歩を羽交い締めにするのは難しい。その場合は、新たな働き方や生き方を編み出すしかない。



高齢者を抱いて運ぶロボット。介護の現場では、機械の導入が進むとみられている。2012年、大阪市で

## さあ考えよう！

**今週の課題**  
人々の仕事が機械に置き換わっていく社会の「新たな働き方や生き方」について、考えたことを書きましよう。



出題と解説

伊藤久仁子  
(共立女子第二中学校高等学校国語科教諭)



& 朝中編集部

今週からスタートの新コーナーです。朝日新聞の1面に毎朝掲載されている名物コラム「天声人語」を読み、200字の作文に挑戦しましょう。200字程度の作文は高校入試でよく課されます。800字など長い文章を書く基礎練習にもなるので、大学入試の小論文対策としてもおすすめです。

傍線部①で、「コラムの筆者は、「どきつとする」と述べています。この表現をヒントに、人間の仕事が機械に置き換わった場合のよい点・困る点、置き換わる仕事と置き換えられない仕事を具体的に箇条書きで書き出してみましよう。

傍線部②は、「そのような時代が来たときにどうすべきか」という筆者の提案です。まずは、「自分だったらどう働き、どう生きていきたいか」について考えてみる書きやすくなります。

- 【超克】 乗り越えること。
- 【河上徹太郎】 評論家。1902～80。小林秀雄、詩人の中原中也らと交遊した。
- 【小林秀雄】 評論家。1902～83。戦争中は日本の古典、戦後は音楽や美術の批評活動をした。
- 【物別れ】 お互いの意見が合わず、別れること。
- 【人工知能】 コンピュータに人間のような知的作業をさせる技術のこと。計算など比較的単純なことではなく、複雑な思考のできる人工知能の開発が進んでいる。
- 【羽交い締め】 相手を後ろからつかんで動けなくすること。

## ✓ 語句をチェック

【真珠湾攻撃】 太平洋戦争の始まりとなった戦いのこと。1941年12月8日、日本海軍がアメリカ（米国）・ハワイの真珠湾にある軍事基地を突然攻撃し、日米の戦争が始まった。

【超克】 乗り越えること。  
【河上徹太郎】 評論家。1902～80。小林秀雄、詩人の中原中也らと交遊した。  
【小林秀雄】 評論家。1902～83。戦争中は日本の古典、戦後は音楽や美術の批評活動をした。  
【物別れ】 お互いの意見が合わず、別れること。

課題に挑戦し、作文を送ってください。紙面で紹介します。編集部で表現を多少直すことがあります。名前、学年、住所、電話番号を書いて、ファクス（03・3545・0727）、メール（weekly@asagaku.co.jp）、〒104・8433 朝日中学生ウイークリー「天声人語200字作文」係へ。

毎週 火曜日 必着

## よし書いてみよう！

# 届いた「200字作文」を紹介／書くコツを伝授

課題に沿って書いて送ってもらった作文を毎週2作品程度、紹介します。今回は1回目なので、今週の課題「未来の新たな働き方や生き方」について、共立女子第二中学校の3年生に書いてもらいました。ここで紹介する鈴木裕梨さん、鈴木百合香さんの2人も、機械化されていく社会の中でも、人間にしかできない「心のこもった」ものや活動があるのではないかと考えています。

## 慣れれば10分で書ける！

みなさんの考えはどうですか。人間にしかできない仕事とは？ 機械と共存する生き方とは？ ぜひ、課題に挑戦してください！

共立女子第二中学校の3年生は、朝の10分学習のとき、新聞記事を読んで200字作文を書く取り組みを続けています。今回も、天声人語の記事を読んでから作文を書き終わるまで、10分ほどだったそうです。最初のうちは時間がかかるかもしれませんが、慣れると短時間で書けるようになります。

## 機械との共存が大切だ

機械の方が、人間よりも短時間で大量のものを作れ、人件費も安く楽に仕事ができる。そのため機械を開発する技術は向上していき、それを止めることはできないと思う。

しかし、機械には人間のように心がけない。心のこもったものを作ることは人間でなければできない。きっと他にも人間でなければできないことはたくさんある。

だから、人間と機械とがうまく共存していくこと、それが大切ではないだろうか。

3年・鈴木裕梨

## 人は感情持って接する

技術の進歩は素晴らしいことだ。そして、技術はこれからも進歩し続けるだろう。そうした現実には生きる私たちにできるのは、この進歩を止めることではなく、私たち人間にしかできない心や感情を持ち、相手や物に対して接していくことだと思う。

これからは私たち人間も進歩し、誰も挑戦したことがない新しいことをしなければならぬ。私たちが生み出した技術とどのようにして向き合っていくかが大切だ。

3年・鈴木百合香

## 文章表現上達のポイント①

書く前に アイデアメモをつくらう！



いきなり書き始めるよりも、メモを作ってみると、考えをまとめやすくなります。

文章の形ではなく、箇条書きで大丈夫。思いついた順番に書き出します。その中から作文に使うものを選び、書く順番も決めましょう。頭で考えるだけでなく、メモに書き出して「目に見える形にする」ことで書きやすくなりますよ。

200字は短いので、考えたことをすべて書くことはできないかもしれませんが、でもそれでいいのです。